

科目名	市民社会論特講	担当者	イケガミ キョコ 池上 清子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1. 異質性や多様性の尊重に基づく他者との連帯を活動原理とする NPO, NGO。その活動のもつ意味は何かを知る。</p> <p>2. 市民社会を形作ってきた欧米の歴史的経験, 国内の福祉サービスなどにおける新しい試み, 日本の高齢者介護などの国内を活動基盤とする NPO。一方で, 政府と非政府機関 (NGO) の区分の下, 国際協力を携わる国際協力 NGO。NPO と NGO の違いを考える。</p> <p>3. アソシエーションの概念を把握する。</p> <p>4. 新しい社会を創り出すファクターを理解する。</p>		
到達目標	<p>1. 社会の多様なステークホルダー (団体, 個人など) を理解する。</p> <p>2. 市民社会の役割を概観する。</p> <p>3. 社会の変革 (transforming the world) の概念を理解する。</p>		
学修方法	<p>レポートを通じた学修は, 課題に沿って作成し, manaba を通じて教員のコメントなどを参考にして修正を重ねて, 最終版としてまとめてから, manaba に改めて最終版として提出するプロセスを経る。教員とのやり取りは, manaba を通じたコミュニケーションを前提とする。</p> <p>新しい情報を常に入手することが重要となるので, 関連する Website や新聞記事などの分析は欠かせない。そのため, 日常からの情報収集にも配慮する。</p> <p>具体的には, 教材や参考図書を読み込むこと, それらを吸収したうえで, レポートの課題に対する自分の考え方をまとめる。</p>		
スケジュール	<p>前期レポートは9月中旬, 後期レポートは1月中旬となっている。従って, 以下のようなスケジュールが目安として考えられる。</p> <p>前期: 教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末, 課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については, 草稿としてまとめる前に, メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期: 教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬, 課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については, 草稿としてまとめる前に, メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も翌年1月課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>課題に沿った論理構築がなされているか。</p> <p>3,000~4,000字という短い字数で, 自分の意見をまとめられているか。</p> <p>十分に教材を読み込んでいるかどうか。</p> <p>参考文献, 先行研究などの情報検索が十分かどうか。</p> <p>脚注などレポート作成に必要な情報が正確に含まれているか。</p>
	平常評価	20%	manaba を通じて行われるコメントに関する修正度合。毎回, 修正部分を赤字にして提出しているかどうかを含む。
履修者への要望	<p>成績の評価基準にも記したように, 論理的であることと自分の意見をまとめることを主眼としているので, どんな小さな点でも構わないので, 自分の考えや気づきを大切に, レポートを書いていただきたい。</p> <p>現代的なテーマなので, 新しい論文, ネット上の情報などにも十分に目を配っていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 宇野重規編 教材名： 『民主主義と市民社会』（岩波書店、2016年） ISBN:978-4-0002-7035-9 4,800円+税
	「民主主義」を自らのものとするために、敗戦から高度経済成長、ポスト冷戦からネット社会までを概観し、社会の変容のなかで形成された、戦後日本の市民像と社会像を分析する。
参考図書	本郷秀和・荒木剛・松岡佐智・袖井智子『介護系NPOの現状と制度外サービス展開に向けた課題』 福岡県立大学人間社会学部紀要 2011, Vol. 19, No. 2, 1-18 （ネット上で公開されている）
履修上のポイント	以下の点に留意して、レポートをまとめること。 1. 第一段階として、日本国内のNPOについて概観する。 2. 歴史的な変遷を把握する。社会的背景を分析する。 3. どのように社会に役立っているのか、または、役にたっていないのかを明確に判断する。 4. 今後の日本国内のNPOの課題について考える。
レポート課題1	戦後の日本の市民社会の形成過程について歴史的変遷を含めて、3,000-4,000字でまとめる。 留意点： 時間があれば、英国の事例は参考になる。
レポート課題2	日本のNPO（特に福祉・介護分野）の設立の背景と意義、課題について考察し、3,000-4,000字でまとめる。 留意点： NPO全体の統計的なデータも含むと分かりやすい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： JANIC 教材名： 『NGO データブック 2016』（2016年、JANICのホームページで掲載されている）
	NGOの活動を紹介した「国際協力NGOガイド」の最新版。 持続可能な開発目標（SDGs）をテーマにNGO 54団体を掲載し、具体的な活動を紹介している。
参考図書	内海成治編『新版 国際協力を学ぶ人のために』 （世界思想社、2016年）ISBN:978-4-7907-1674-7 2,800円+税
履修上のポイント	以下の点に留意してレポートをまとめる。 1. 国際協力NGOの定義 2. 実際にどの国への支援活動が多いのか、日本の支援を獲得するために、どのような活動をしているのかなど、具体的な活動内容を知る 3. 世界的な開発枠組みである持続可能な開発目標（SDGs）との整合性をどのように進めようとしているのか。
レポート課題1	日本の国際協力NGOを概観し、抱える課題について、3,000-4,000字でまとめる。 留意点： 国際協力NGO全体の統計的なデータを含むこと。課題は共通した点を指摘すること。
レポート課題2	身近で知っている国際協力NGOを一つ取り上げ、活動を評価する（3,000-4,000字でまとめる）。 留意点： 身近にない場合には、NGOデータブックで紹介されている中から選択して、HPなどで情報を収集すること。